商工観光労働企業委員会　県外所管事務調査の概要

◆調査日程　　令和４年１１月１４日（月）～１１月１６日（水）

◆調査先・調査内容

①池田町ブドウ・ブドウ酒研究所（北海道池田町）

調査内容：自治体ワイナリーの取組について

池田町は、１９５２年の十勝沖地震及び１９５３年と１９５４年の大冷害により税収が落ち込んだ。苦境を脱却する切り札として、１９５７年に初当選した丸谷町長が町内に自生する山ブドウに着目し、１９６１年からブドウ栽培、１９６３年にワインの醸造を開始した。

太平洋側にある池田町の冬は、日高山脈で雪雲が遮られるとともに、マイナス２０度ほどの冷たく乾燥した風が吹く。そのため、ワイン醸造は厳寒の地での挑戦であった。池田町の厳しい寒さに耐えることのできるブドウ品種として開発された山幸（やまさち）は、その名称を使って輸出が可能な国際ブドウ品種及び同義語リストに登録されている。

また、池田町では中学生がブドウを収穫して、その時に仕込んだワインを成人式で配布するなどの取組も行っている。

本県の商業観光振興の参考とするため、池田町の自治体ワイナリーの取組を調査した。

＜主な質疑等＞
・ワイン樽の自然蒸発に伴う補充について
・自治体ワイナリーの職員の異動について

②大樹町役場、北海道スペースポート（北海道大樹町（タイキチョウ））

調査内容：大樹町の宇宙港の取組及び北海道スペースポートについて

大樹町は、１９８４年に宇宙産業基地構想に大樹町周辺が含まれたことをきっかけに、官民一体となって宇宙のまちづくりを進めている。

北海道スペースポートを整備した場合の北海道への年間の波及効果は、経済効果が約２６７億円、雇用創出は約２，３００人、観光客の増加は約１７万人と算出されている。

北海道スペースポートは２０２２年から２０２５年の４年間で拡充整備を進める計画であり、財源は国の地方創生拠点整備交付金と企業版ふるさと納税による寄附を活用する。

本県における宇宙港振興の参考とするため、大樹町の宇宙港及び北海道スペースポートの取組など調査し、実際の射場を視察した。

＜主な質疑等＞
・滑走路等の今後の維持方法について
・企業版ふるさと納税について
・大樹町と北海道の関係について

③インターステラテクノロジズ株式会社（北海道大樹町）

調査内容：ロケット製造及び今後の展望について

インターステラテクノロジズ株式会社は世界一低価格で便利なロケットをつくるため、ロケットの根幹となる技術を自社や社外の研究機関と協力して開発し、製造体制を社内に持つことで部品を内製している。２０１９年に民間企業が単独開発したロケットとして国内で初めて、液体燃料ロケットとしては世界で４番目の宇宙到達を果たした。

民間でロケットを製造していることから、ロケットにスポンサーの特色を入れるユニークな取組を行っている。また、従業員の大半は移住者であり、大樹町の地域振興にも貢献している。

現在開発中のロケットＺＥＲＯは、超小型の人工衛星がピンポイントで行きたい場所に送り届けるためのロケットである。

今後の本県宇宙港関連事業の企業展開などの参考とするため、本社工場を見学しながら、ロケット開発や今後の展望などを調査した。

＜主な質疑等＞
・従業員や支社について（人数、雇用体系、福島支社）
・財源の確保について

④北海道ＴＯＫＡＣＨＩサイクルツーリズムルート協議会（北海道帯広市）

調査内容：トカプチ４００の取組について

北海道ＴＯＫＡＣＨＩサイクルツーリズムルート協議会は、自転車関係団体や観光協会、商工会議所、行政機関などで構成され、十勝地域のサイクルツーリズムの整備など官民一体となり連携・協働した取組を進めている。

十勝地域のサイクルルートである全長４０３キロメートルのトカプチ４００は、２０２１年５月に第２次ナショナルサイクルルートとして、国から北海道初の指定を受けた。

北海道ＴＯＫＡＣＨＩサイクルツーリズムルート協議会は、走行環境部会、受入環境部会、ＰＲ・誘客部会の三つの部会を設けてそれぞれ活動している。例えば、走行環境部会では安全な走行環境を整備するとともに、ナショナルサイクルルートロゴ入りの案内看板に付け替える等、グレードアップする取組などを行っている。

本県におけるサイクルツーリズムの参考とするため、トカプチ４００の取組について調査した。

＜主な質疑等＞
・ロードバイクを空港でレンタルした場合の付属用品について
・市町村道などの整備にかかる費用について